

子どもの健康を守ろう

日置市PTA教育講演会

日置市内の小・中・義・高等学校PTA会員が一堂に会し、意欲に満ちた青少年の育成について学びを深め、PTA活動の活性化及び青少年の健全育成に資することを目的に、10月2日(土)、日置市中央公民館において、本研修会が行われました。新型コロナウイルス感染症防止対策のため、人数を制限して実施し、当日は、本市各学校の保護者及び教育委員会等を含め、計77名の参加となりました。

家庭のルールづくりを

各地でネット健康被害をメインに啓発活動を行っているNPO法人ネットポリス鹿児島・安心サポーターの増田淑子(ますだとしこ)先生に『健康被害とメディアの危険な関係について』と題して、講演をしていただきました。

先生は、様々な医学的な実態資料や、メディアによる健康被害の事例を通して、メディアの利用の仕方について分かりやすくお話をされました。



講師の増田先生

特に、ゲームやSNS等使用する時に、やめたくてもやめられない行動嗜癖(こうどうしへき)や依存症の怖さについては、脳の機能低下や、睡眠減少につながることで更に心と体の不調になるということでした。

講演の最後に、スマホ・タブレット等を使用するときは、確実に、家庭でのルールづくりを行ってほしいなどの指導をいただきました。

このことを、

多くの方々が、自らのこととして捉え、スマホ時代に子供たちを更に、守っていきたいと思う充実した講演会となりました。



講演の様子

出席者感想より

- 改めて、スマホの怖さが分かりました。幼い頃から改善しないと怖いですね。うまくつきあっていたいと思います。大人がまずは、気を付けます。
- メディアによる健康被害など詳しくわかり、とても勉強になりました。家庭内でも、気をつけていき、スマホなど、上手に利用していきたいと思いました。
- ゲームと脳の関係が理路整然と解説され、分かりやすかったです。実践しやすいことを教えていただき、今後に生かしていきたいです。

日置市子ども読書活動推進大会

「日置市市民総ぐるみの読書活動の推進」を図るため、7月24日(土)に日置市中央公民館で2年ぶりに開催しました。

開会行事後、第2期日置市民推薦図書200冊スタンプリーパー達成者を代表して2名の方に、認定証を授与しました。感染症防止対策を行いながら、各グループに別れて、ワークショップ活動を行いました。

読み聞かせのグループでは、今年結成20周年を迎えた「こけけ読み聞かせたい」の皆さんに実演を行っていただき、親子で絵本の世界を楽しみました。



「こけけ読み聞かせたい」

また、工作活動のグループでは、ミニペットボトルで作るスノードーム工作、簡単折り絵本の製作では、創造性豊かなオリジナル溢れる作品を製作していました。そして、グループ参加型の読書指導を用いたアニメーションでは、宮沢賢治について興味・関心を高めることができました。

参加された方から、「家ではなかなか子供と一緒に製作等をする時間がなかったのに来てよかった」などの感想が寄せられました。日置市立図書館ではこれからも、子供の読書活動を応援します。

伊集院地域通学口宿ふるさと学寮

「皆で力を合わせた4日間」

「せつぺとべ日吉館」に於いて、12月12日(日)〜15日(水)、小学5・6年生合計20名が参加し、感染防止対策を行いながら「ふるさと学寮」を実施しました。5年生の中には、初めて集団宿泊生活を経験する子供もいました。

学寮生は、洗濯を自ら行い、洗濯物を干し、翌日、洗濯物をたたむなど、保護者に頼っていた日常のありがたみを学寮を通して感じていくようにしました。また、食事や入浴など、集団生活のルールを学びながら、他校の学寮生と交流を深めていきました。

さらに、学寮生に楽しい思い出をつくるため、講師を招いて「ふるさと学」や「ALT交流」活動などを行いました。

全ての活動において、学寮生は、積極的に活動し、館内は、学寮生の元気な声が響いていました。

退寮式で学寮生は、この4日間の思い出や、学んだ事を自らの言葉で、たくましく発表しました。



ふるさと学寮入寮式

20名の学寮生は、集団生活を通して、家族の大切さや自らの甘えや依存心などに気づき、自立する心が芽生えた「通学合宿ふるさと学寮」となりました。

がんばれ！ 青年団体

コロナ禍により私たちの生活が一変して早2年あまり。感染の拡大・縮小を繰り返しながら、現在第六波の真っ只中にあります。

日常生活がいろいろな制約を受ける中で、社会教育関係団体の活動も、組織の存続も含めて難しい舵取りが続いています。

3つの青年団体組織

本市の社会教育関係団体の中には、3つの青年団的な組織（「羽島青年学級」「本浦青年友交会」「市来若者隊」）があります。

羽島青年学級は、元来日本の夏の風物詩であった盆踊り大会を守り続け、地域の文化祭を主催して郷土に根差した手作りの演劇を披露するなど、羽島地区の地域活動の一翼を担ってきました。本浦青年友交会は、マゴロのまちの漁願相撲の歴史を伝える「相撲甚句」の伝承や六月灯の運営など、港町である本浦地区の地域づくりを支え、市来若者隊は、市来地域の青年団の衰退後にジュニアリーダー経験者などを中心に新たに立ち上げられた組織で、市来地域の地域活動に加え、夏のイベント「マリリンビーチ・フェスタ」（照島海岸の砂浜を利用したビーチバレーボール大会）を開催するなど、本市の対外的なPRにも一役買っています。

どの団体も、活動の意義を自覚し地域や団体の特色を活かして活動を続けています。

地域のバトンをつなぐ青年団

しかしながら、世の流れには逆らえず、団員の減少や高齢化などで、弱体化が否めない状況です。少なくともメンバーで活動を継続しながらの会員拡大はままならず、主体メンバーと接するたびに、焦りと苦悩の気持ちが垣間見られます。

若者の団体活動離れの流れは止められないのかもしれませんが、大河に小石を投げ続けることは必要です。時代とともに組織や活動の内容は変わっても、若者が集い一つのことを成し遂げる取組は続けてほしい。世代間で地域づくりのバトンを繋ぐためにも、青年団体には頑張っ



羽島演劇で活躍する青年団

市来若者隊がジュニアリーダークラブのOBたちで作られたように、青少年期の活動が成年度の活動に繋がっていくことを念頭に、社会教育従事者として、また青年団OBとしても、引き続き青少年の育成支援に取り組んでいきたいと思えます。

第5回いちき串木野市 ビブリオバトル大会

おすすめの本を紹介しあい、来場者の投票で「チャンプ本」を決めるビブリオバトル大会が、12月27日（月）に、いちきアクアホールで開催されました。5回目となる今年は、私立を含めた市内の全小中学校から代表の児童・生徒が参加し、また来場者も過去最多となりました。

ビブリオバトルでは深く本を読み込む読解力や本の内容と自分の思いをわかりやすく伝えるプレゼンテーション能力、表現力などが培われるとされています。



発表の様子

いずれの発表も熱意にあふれて素晴らしく、質疑応答に児童・生徒らが積極的に参加する姿が見られるなど有意義な大会となりました。各部のチャンプ本は次のとおりです。

【小学生の部】

「きつときみに届くと信じて」
川上小学校5年 内田あかり

【中学生の部】

「夏の終わりに君が死ねば完璧だったから」
羽島中学校2年 平野愛梨花

いちき串木野の歌人萬造寺齋 顕彰の地ふるさと短歌大会

本市では羽島出身の歌人 故「萬造寺齋」の顕彰と文化の薫るまちづくりの一環として「黎明の地ふるさと短歌大会」を実施しています。

今年は大会が始まってから、5回目の節目の年になり、5月20日から約2ヶ月の間、作品を募集したところ、コロナ禍にもかかわらず最多の3820首もの作品が寄せられました。県歌人協会の厳正なる審査の結果、大賞に輝いたのは、霧島市立霧島中学校2年久保田笑弥さんの作品でした。

学校へ向かぬ気持ちを木洩れ日は
我を励まし背を押しくれる

「揺れ動く気持ちと木洩れ日が重なった、思春期のナイーブな感覚を捉えた秀歌」と審査員の評でした。

表彰式は11月7日（日）に行われ、大賞を含む31作品が表彰されました。この大会が伝統的文化である短歌にこれまでに以上に親しむきっかけとなり、ひいては文化の振興につながるよう取り組んでいきたいと考えています。



受賞者記念撮影